



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/08/05

あっさり黙示録 #67

これが最後の審判だ！

黙示録 20章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日はあっさり黙示録第67回目です。最初に、ちょっと気になる写真を見ていただきます。



3人の笑顔の女性が写ってますね。親子です。この写真は、ある方がインターネット上で見つけて、「これ、使えるんじゃないですか」と、資料として送っていただきました。

この3人、非常に笑顔のスナップ写真なんです。おそらく真ん中の方が自撮りしています。誰かに撮ってもらうのではなく、スマホを自分たちの方に向けて撮影していると思われます。思い出を残そうということで、笑顔いっぱいなんです。

しかし、気になることがあるんです。右上の角のところ、何かまぶしい光が見えますよね。その光から2本の光るラインが出ていますね。これ、レールです。この光を放っているものは列車なんです。

彼女たちは線路の上でスナップ写真を撮っていて、すぐ後ろに列車が近づいているんです。もし第三者が写真を撮っていたら、「すぐにそこから逃げなさい！」と言うことができたでしょう。しかし、自撮りなんです。

彼女たちは今の時間を楽しみ、熱中し、没頭しているんですね。警笛が鳴らされたに違いないのに、それも耳に入らなかったようです。轢かれました。

私はこの写真を見た時、黙示録のことが浮かびました。黙示録は私たちに、刻一刻と近づいている危機について警告を与えている書物だからです。

やがて人類は艱難時代に突入します。艱難時代に入って、その中で信仰を持つということは本当に厳しいことなのです。「それが来る前に、『今は救いの日、恵みの時である』時代だからこそ、イエス・キリストの福音を信じませんか？」と働きかけているんですね。

同時に、世界全体に対する終末論とは別に、それに関連して、個人の終末論についても聖書は語っているんです。個人の終末論とは何でしょう。

人は死ぬと、死後に行くところが2箇所あります。行き先が人によって違うのです。永遠の天国と永遠の火の池と呼ばれているところ。つまり、最後の審判の結果、永

遠の滅びの世界に落ちるといった可能性について語っている。人はどちらかです。天国なのか火の池なのか。それが**黙示録 20 章**に書かれています。

### 黙示録 20 章

**11 また私は、大きな白い御座と、そこに着いておられる方を見た。地と天はその御前から逃げ去り、跡形もなくなった。**

大きな白い御座。大きなは、スケールが大きいという意味もありますが、同時に、最も偉大な、最も重要な、最高の白い御座を意味しています。

裁判所には地方裁判所、その上に高等裁判所、そして最高裁判所がありますね。地方裁判所と高等裁判所の判決は、最高裁でひっくり返される可能性があります。最高裁で一度下された審判は覆されることはありません。ここは天における最高裁のことです。それが**大きな**という言葉に表されています。

白い御座。白さは聖さを表します。聖い聖い神の照準にしたがって裁く最高裁判所の裁判官の座に、ある人物が着いています。

そこに着いておられる方を見た。大きな白い御座に着座されている方は、父なる神ではありません。イエス・キリストです。

### ヨハネ 5 章

**27 また父は、さばきを行う権威を子に与えてくださいました。子は人の子だからです。**

父は父なる神様です。子に与えてくださいました。何を？ さばきを行う権威です。最後の審判でジャッジを下す権威を子に与えてくださいました。子は人の子だからです。人の子はイエス・キリストのことです。最後の審判で、大きな白い御座に着座されるのはイエス・キリストです。だから、厳かで、そうして、最終結審なのです。たとえ罪を犯したとしても、父なる神様の前で、イエス・キリストという優秀な弁護士がついています。キリストの弁護があるので、彼に依頼する人はみな助かるのです。

イエスご自身が最後の審判の座に着いた時、だれがキリストを執り成し、弁護することができるでしょう。だれもいません。なので、この大きな白い御座の裁きこそは、最も偉大で恐るべき裁きなのです。

**28 このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞く時が来るのです。**

墓の中にいる者とは死んだ人たちです。死んだ人たちはやがて、キリストの呼び出しを受けて、みんな復活します。

**29** そのとき、善を行った者はよみがえっていのちを受けるために、悪を行った者はよみがえってさばきを受けるために出て来ます。

キリストを信じた人も、キリストを拒んだ人も、すべて復活する。肉体をもって復活する。しかし、目的が違います。キリストを受け入れた人はいのちを受けるために復活しますが、悪を行った者はよみがえってさばきを受けるために復活します。

## 黙示録 20 章

**12a** また私は、死んだ人々が大きい者も小さい者も御座の前に立っているのを見た。

ここでいう死んだ人々に、クリスチャンは含まれません。ここでの死んだ人々は、霊的に死んだ人々のことです。霊的に死んだ人とは、イエス・キリストを救い主として受け入れない状態の人、受け入れていない状態の人のことです。キリストを拒絶した状態で亡くなった人たち限定の話なんですね。

大きい者とは、単に体重がでかいとか身長が高いというよりも、地上での影響力の大きさ、地位の高さ、だれもが知っている、また偉人として崇められている存在。だれも逆らうことができないような、大きな権力を振るった人たち

小さい者は大きい者の対称なので、一般庶民と取るべきです。子供と捉えることはできないと思います。私の理解では、子供は地獄にいません。判断力のない子供が地獄に入れられるということはないんですね。

**12b** 数々の書物が開かれた。書物がもう一つ開かれたが、それはいのちの書であった。死んだ者たちは、これらの書物に書かれていることにしたが、自分の行いに応じてさばかれた。

2種類の書物に基いてさばかれたと書いてあります。裁判官は証拠に基いて審判しますが、証拠として2種類の書物が開かれます。

①数々の書物。霊的に死んだ者たちが地上で生きていた時、どんなことを言い、行ったのか、それら一つ一つを詳らかに記録している書物です。

②いのちの書。キリストを受け入れた人たちの名前が、消されずに残っている書物。

なぜ2種類の書物があるのか。聖書には「二人の証人は真実です」ということがあって、一人の証言だけでは証拠として不十分だと言うんです。ここで、神がその原則に則って行動されていることが分かります。キリストは2つの証拠証明書に基いて、正確な審判をするというわけですね。

**13a** 海はその中にいる死者を出した。

復活を免れる人はだれもいません。たとえ、難破して海でサメに食べられて亡くなってしまった人、体も骨もどこにも残っていないような人でも、この時はみな復活します。復活して、白い大きな御座の前に立つのです。

### 13b 死とよみも、その中にいる死者を出した。

海はその中にいる死者を出した。次に、死とよみも、その中にいる死者を出した。聖書の解釈の方法では、1つの節においてよく似た言い回しが出て来ると、前に出た言い回しを次のものの解釈に適應するんです。

海はその中にいる死者を出した。海は死者がいる場所。ということで、死とよみも、その中にいる死者を出した。この死は死者の体がある場所。つまり、お墓と解釈するのが自然です。

よみはギリシア語でハデス。人が死後に行く世界。死後の世界を広い意味でハデスと言います。死後の世界の中で、キリストを信じないで死んだ人の霊と魂がいる場所がよみ（ハデス）です。

墓からは肉体、よみからは霊と魂が出て来た。そして、その中にいる死者を出した。すなわち、体と魂が合体し、よみがえった状態でキリストの前に立つ。

### 13c 彼らはそれぞれ自分の行いに応じてさばかれた。

自分の行いに応じて。すべての人が同じ裁きを受けるのではない。さばきを受けるにせよ軽重があるんです。重いさばきと、比較的軽くはない裁きがあるようです。どちらにしても苦しいのですが、罪はそれぞれ神の前に違うものなのです。それぞれ異なる罪の行いにふさわしい刑罰が行われるんですね。

### 14a それから、死とよみは火の池に投げ込まれた。

先ほどの死とよみは場所でしたが、ここは、死者は裁かれた後に出て来るという文脈で解釈すべきです。なので、こう解釈するのが一番自然なんですね。

死は肉体にまつわる部分です。死には分離の意味がありますが、罪を犯した後、人は死ぬものとなりました。罪を犯した肉体の部分。よみは罪を犯した霊・魂の部分。肉体の部分も霊・魂の部分も、ともに火の池（ゲヘナ）に投げ込まれた。

火の池（ゲヘナ）は最終的な裁きの場所です。

ハデスは魂だけが行くところです。肉体は地上の墓の中。

しかし、火の池（ゲヘナ）は、体も魂も、両方が入る永遠の滅びの場所です。

死とよみは火の池に投げ込まれた。これが第二の死だと書いてあるんです。

私が「ごうちゃんねる」で力を尽くして、聖書の福音を発信している最大の理由の1つはこれなんですね。人が死んで無になるなら、そんなにシャカリキになる必要はないんです。しかし、人間は死んで終わりではない。

死後に大きな白い御座の前に立つことになっています。そこに行ったら、二度と戻って来れません。それは、火の池とあるように苦しみの場所なんですね。

ただし、ここで言っている火は燃えている火のことではありません。火で燃やされるような痛みを感じるということなんです。どんな痛みなんでしょう。生きている時に多くの恵みやチャンスを受けていたにもかかわらず、「創造主は必要ない」と拒んだ後悔の苦しみが一番大きいのではないかと考えます。

さて黙示録 20 章の最後に、「千年王国の終わりに大きな白い御座の裁きがある。それが起こる時には、天も地も跡形もなくなった」と書いてあるんですね。裁判所で、大きな裁きの前に「ただいまから判決文を読み上げます」と言ったら、みんな静まり返るんじゃないですか。天も地も静まり返り、いや跡形もなくなった。全宇宙が、白い御座の前に消滅する時が来ると言うんです。どれほど恐るべき裁きであるか分かりますね。

### 15 いのちの書に記されていない者はみな、火の池に投げ込まれた。

いのちの書に記されていない者はイエス・キリストを拒んだ人たちですが、いのちの書に名前を書いてもらえばいいんです。どうしたら書いてもらえるんでしょう。

### ヨハネ 1 章

**12** しかし、この方（イエス・キリスト）を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。

神の子どもとなる。これは養子縁組で、神の家族に子供として迎え入れられるということです。この地上でも養子縁組があります。これが成立した時は、戸籍謄本に「その子供はこの両親の子供である」と記録されます。

同じように、この方（イエス・キリスト）を救い主として受け入れた人々には、いのちの書という戸籍謄本に名前が記されるのです。

黙示録は救いを得させるために書かれた書です。

警笛を鳴らしながら、すぐ後ろまで迫っている裁きがあります。

轢き殺される前に、裁きを受ける前に、この恵みを受け取ろうではありませんか。ぜひイエス・キリストを信じてください。救われます。心からお勧めします。

チャンネル登録といいねボタンもよろしくお願いします。

ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。

皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

---

☆引用；日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017